

連携先世界遺産：真言宗御室派 総本山仁和寺

仁和寺を、もっと！ Ver.2

私たちが見た仁和寺は、落ち着いた古都の雰囲気満ち、国内外問わず訪問者がある。ユニークで魅力あるスポットも多い。大学生目線で、仁和寺を「もっと身近」に、「もっと魅力」が感じられる場所にしたい。その具体策を提案をします。

■ 受講生

氏名（50音順）で記載してください。

角波 詩緒莉（京都光華女子大学 健康科学部 健康栄養学科 1年生）

福澤 明依（京都光華女子大学 キャリア形成学部キャリア形成学科 4年生）

聴講生 中田 鈴子（京都光華女子大学 キャリア形成学部キャリア形成学科 2年生）

SA 佐々木 利尚（種智院大学 人文学部 4年生）

■ 担当教員

朝比奈 英夫（京都光華女子大学・キャリア形成学部・教授）

大島 祥子（同・キャリア形成学部・准教授）

活動目的・概要

洛北、双ヶ岡の北麓に壮大な伽藍を構える真言宗御室派の仁和寺は、建造物などの不動産だけでも、国宝、重要文化財のほか、登録有形文化財、国名勝・史跡など、多様な富んだ文化財を有する大寺院です。特に、近年は、1泊100万円の宿泊で話題を集めた「松林庵」文化体験プログラムや紅葉のライトアップに入場料を設定し写真愛好家を集めるなど、文化財を活用した先進的な企画を数多く発表し続けています。さらに境内の建築のリノベーションによる喫茶スペースの設置や大学生の研究発表の場としての活用など、より多くの人たちの交流を促進するソフトな仕掛けも進められています。

こうした動きは、昨年の文化財保護法の改正により、文化財のあり方を「保存」から観光に資する「活用」に舵を切った国の方針転換の延長線上に位置づけられます。私たちは世界遺産・仁和寺で宗教・文化財・歴史・自然・交流の様々な側面を学びながら、座講や現地での調査・ヒアリングを通じて、仁和寺をもっと訪問したくなる存在になって欲しいと思い、その思い、大学生の目線から提案することを目的に実施しました。



◆ 主な活動

2024.4.13 御室桜見学

2024.5月 インタビュートレーニング(オンデマンド)

2024.9.7 自己紹介、前年度の取組共有、仁和寺見学
「なぜ?」の収集

2024.9.14 仁和寺宗務総長 大林實温先生 特別講義
仁和寺の文化財学習(学芸員 朝川先生)
仁和寺境内見学

2024.9.28 今年度の企画検討

2024.10.5 プロジェクトの行動計画、予算案、目標作成

2024.10.19 消しゴムはんこ作成ワークショップ

2024.10.26 消しゴムはんこ作成ワークショップ

2024.11.2 今年度のアウトプットの整理

2024.11.10 中間報告資料作成

2024.11.17 仁和寺中間報告

2024.11.23 プレゼン資料の作成&発表練習

2024.11.30 発表練習

2024.12.8 成果報告会 仁和寺様からの講評

2024.12.15 振り返り、レポート作成

活動の成果

今年度の方針

- ① 私たち自身が仁和寺を学び、好きになる
- ② 私たちと同世代が仁和寺に関心を持ち、足を運ぶ動機を創る
- ③ 2023年度の成果を継承・発展させる

今年度のテーマ

今年度のアウトプット

A. まずは、若い人にもっと！

知ってもらおう

B. 文化財をもっと！

(関心・見せる・親しむ・楽しむ)

① ものをつくる

② 旧厩舎リノベ提案

③ 文化的・歴史的ストックの編集

今年度の提案

① スタンプラリー

- 120年前は木版画、今年度はゴムスタンプ。
- モチーフは仁和寺ゆかりのコンテンツで構成。
- 境内6箇所を巡るスタンプラリー。
- 1箇所ずつ1色。
- 6箇所すべて巡って絵が完成。
- 最後に廻る場所により御利益が異なる！
- 今年は試作、来年に実装。
- 劣化と悪戯防止策。

② 拠点整備

- 宗教の場であるとともに文化・交流の場であることにフォーカス。
- 文化財故の新築・施設整備の困難さ。
- 旧厩舎をリノベーションして、新しい交流の場所を創出。
- スタンプラリーの拠点
- 「推し」の定期交流
- 御詠歌の拠点
- 既存の魅力スポット「水掛不動産」「九所明神」の再評価と物語付与、発信。

③ 黒猫・孔雀

- 宇多天皇が可愛がった黒猫、仁和寺に縁がある孔雀など、歴史的な事実と身近なエピソードを結びつける。
- 事実やエピソードからの「推し」を語り合うコミュニティの集いの場と機会を提供。
- 全国の所属寺院との「絆」の再構築と交流。
- 所属寺院を含めた「開帳」を合同で仁和寺で行う。
- 現代の曼荼羅づくり。



活動を振り返って

- この講義を受ける前までは仁和寺やお寺の知識が全くなかったのですが、仁和寺の歴史や修繕の方法など他では学べないことを学べてよかったです。また、仁和寺の魅力を伝える為に、スタンプラリーの作成など他の講義では経験できないことも経験できてよかったです。（福澤 明依）
- 私はこの講義を受講して初めて仁和寺を訪れました。見る場所1つ1つが新鮮で日本らしさもあり、とても興味深い所でした。また、私たちの世代がどうしたらもっと仁和寺について知りたいと思ひ、訪れるのかを考え、案を出し合ったのが楽しかったです。学びをまとめていると、今私が知っている魅力を1人でも多くの人に伝えたいと思いました。そして、まだまだ知らない仁和寺の歴史や魅力についてもっと詳しくなりたいです。（角波 詩緒莉）
- 仁和寺について何も知らなかったのですが、桜の時期や普段の時の違いを見ることや仁和寺の中を歩き回ること、どのようなものがあるのかを知っていくことがとても面白かったです。活動でスタンプラリーの台を置くために必要なことを考え、実際に建物を見ながら考えました。そして、部屋の中で話し合うだけでは見つけられなかった良い所や悪い所が分かり、話しているだけではなく、実際に見てみるのが大切だと感じました。（中田 鈴子）
- 昨年最も目を引き皆様からお褒めの声を頂いた黄安仙人をスタンプの中に引き継いだ事は、題材の発見からデザインに至る過程を共有していた一人として、感激の至りです。一方今年は新たにスタンプラリーというアイデアが生まれ、これまで考えもしなかった新しい視点も得られました。自分の担当箇所に関しては色々と反省点ばかりですが、実現に向けた現実的課題にぶつかる事で、むしろ去年よりも志す物に一步近づけたかと思ひます。（佐々木 利尚）

担当教員からのコメント

- 今年度は、後期に活動を集中して活動を行い、皆で協力して成果を得ることができました。仁和寺執行長の大林實温先生に境内を案内していただき、国宝の金堂内陣や観音堂を特別に見学し、厳粛な雰囲気と見事な壁画に歴史の重みを実感しました。また学芸員朝川美幸先生のご講義を受講し、仁和寺の歴史と文化について理解を深めました。仁和寺様のご厚意にお礼申し上げますとともに、これからも仁和寺様の新たな魅力を発見していくことで、仁和寺様の魅力を発信していきたいと思ひます。（朝比奈 英夫）
- 今年は、履修生に加え聴講生、SAが加わったチームで実施し、全員での意見交換ができるまとまりがあり、チームワークができていたのが印象的です。回りながら絵を完成させるスタンプラリーをアウトプットの1つと決め、試作品を手作りで作成しましたが、図らずも120年前にも万博出展のために、同じように（いえ、同じとは厚かましすぎますが）版面を作成していたと学芸員の朝川さんに教えていただき、この邂逅に感じ入りました。今年も貴重な機会をいただきましたこと、感謝いたします。（大島 祥子）

活動資料

1000年以上の歴史を重ねてきた仁和寺。過去にあった幾多の試練を乗り越えてきた蓄積。宗教活動の中心であるだけでなく、文化・交流の拠点として多様な「攻め」の展開をされている存在感。私たちは学ぶことばかりで圧倒されっぱなしでした。

仁和寺の学習から始め、境内の調査から感じたことを大事にしながら、昨年の蓄積を活かしながら今年度の具体的な提案を「私たち目線」でまとめました。



出典: X@仁和寺

